

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2003-299884  
(P2003-299884A)

(43) 公開日 平成15年10月21日 (2003. 10. 21)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テーマコード(参考)
A 6 3 H 3/02		A 6 3 H 3/02	2 C 1 5 0
3/00		3/00	P
33/30		33/30	E

審査請求 未請求 請求項の数 9 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2002-105968(P2002-105968)

(22) 出願日 平成14年4月9日(2002. 4. 9)

(71) 出願人 390031808

根本特殊化学株式会社

東京都杉並区上荻1丁目15番1号 丸三ビル内

(72) 発明者 下川 博士

東京都杉並区上荻1-15-1 丸三ビル

根本特殊化学株式会社内

(72) 発明者 大山 光雄

東京都杉並区上荻1-15-1 丸三ビル

根本特殊化学株式会社内

(74) 代理人 100118315

弁理士 黒田 博道

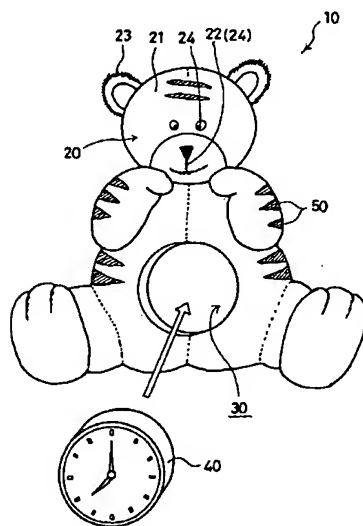
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 めいぐるみ

(57) 【要約】

【課題】 暗所でも繊維に添加された発光部材の発光により、時計及びめいぐるみが視認できる時計付きめいぐるみを提供すること。

【解決手段】 めいぐるみの外装基材20の少なくとも一部に発光部材を添加した繊維を用い、かつ、めいぐるみの一部に時計40を装着した。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 ぬいぐるみの外装基材の少なくとも一部に発光部材を添加した繊維を用い、かつ、ぬいぐるみの一部に時計を装着したことを特徴とする時計付きぬいぐるみ。

【請求項2】 ぬいぐるみの外装基材の少なくとも一部に発光部材を添加した毛を設け、かつ、ぬいぐるみの一部に時計を装着したことを特徴とする時計付きぬいぐるみ。

【請求項3】 ぬいぐるみの外装基材の繊維及びこの外装基材に設けた毛の少なくとも一部に発光部材を用い、かつ、ぬいぐるみの一部に時計を装着したことを特徴とする時計付きぬいぐるみ。

【請求項4】 前記ぬいぐるみの外装基材に設けた毛は、部位により長さが異なることを特徴とする請求項2又は3記載の時計付きぬいぐるみ。

【請求項5】 ぬいぐるみの外装基材の表面を飾る飾り材の少なくとも一部に発光部材を用いたことを特徴とする請求項1乃至4のいずれか1項に記載の時計付きぬいぐるみ。

【請求項6】 前記発光部材は、蓄光性機能を有する蓄光性蛍光体を含有することを特徴とする請求項1乃至5のいずれか1項に記載の時計付きぬいぐるみ。

【請求項7】 前記発光部材は、紫外線により発光する蛍光体を含有することを特徴とする請求項1乃至6のいずれか1項に記載の時計付きぬいぐるみ。

【請求項8】 部位により蓄光性蛍光体又は蛍光体の種類が異なることを特徴とする請求項6又は7記載のぬいぐるみ。

【請求項9】 ぬいぐるみ本体に、一方の面から他方の面に貫通する孔を形成し、当該孔に時計を嵌め込んでなる請求項1乃至8記載のいずれか1項に記載の時計付きぬいぐるみ。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、発光部材を用いた時計付きぬいぐるみに関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来より、基材として天然素材又は合成樹脂繊維を用いたぬいぐるみは存在する。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】そこで、従来のぬいぐるみに、新たな付加価値をつけるべく、各請求項記載の発明がなされた。そして、各請求項にそれぞれ記載された各発明の目的とするところは、次の点にある。(請求項1乃至3)すなわち、請求項1乃至3記載の発明は、昼間又は夜間のような暗所でも繊維に添加された発光部材の発光又は反射光により、時計及びぬいぐるみが視認できる時計付きぬいぐるみを提供しようとするものである。

【0004】(請求項4)請求項4記載の発明は、上記した請求項2又は3記載の発明の目的に加え、次の点を目的とする。すなわち、請求項4記載の発明は、部位により発光する明るさの異なる時計付きぬいぐるみを提供しようとするものである。

【0005】(請求項5)請求項5記載の発明は、上記した請求項1乃至4のいずれか1項に記載の発明の目的に加え、次の点を目的とする。すなわち、請求項5記載の発明は、ぬいぐるみに付けられた飾りが発光する時計付きぬいぐるみを提供しようとするものである。

【0006】(請求項6)請求項6記載の発明は、上記した請求項1乃至5のいずれか1項に記載の発明の目的に加え、次の点を目的とする。すなわち、請求項6記載の発明は、暗所において残光により発光し、夜間でも視認可能な時計付きぬいぐるみを提供しようとするものである。

【0007】(請求項7)請求項7記載の発明は、上記した請求項1乃至6のいずれか1項に記載の発明の目的に加え、次の点を目的とする。すなわち、請求項7記載の発明は、紫外線を照射することにより発光し、又は昼間は色が鮮やかに見える時計付きぬいぐるみを提供しようとするものである。

【0008】(請求項8)請求項8記載の発明は、上記した請求項6又は7記載の発明の目的に加え、次の点を目的とする。すなわち、請求項8記載の発明は、部位により発光する色彩の異なる時計付きぬいぐるみを提供しようとするものである。

【0009】(請求項9)請求項9記載の発明は、上記した請求項1乃至8のいずれか1項に記載の発明の目的に加え、次の点を目的とする。すなわち、請求項9記載の発明は、置き時計として使用でき、時計の電池交換や時間あわせがしやすい時計付きぬいぐるみを提供しようとするものである。

## 【0010】

【課題を解決するための手段】各請求項にそれぞれ記載された各発明は、上記した各目的を達成するためになされたものであり、各発明の特徴点を図面に示した発明の実施の形態を用いて、以下に説明する。なお、符号は、発明の実施の形態において用いた符号を示し、本発明の技術的範囲を限定するものではない。

## 【0011】(特徴点)

(請求項1)請求項1記載の発明は、次の点を特徴とする。すなわち、請求項1記載の発明は、ぬいぐるみの外装基材20の少なくとも一部に発光部材を添加した繊維を用い、かつ、ぬいぐるみの一部に時計40を装着したことを特徴とする。

【0012】本発明は、ぬいぐるみの一部に時計40を装着した時計付きぬいぐるみである。前記時計40は、ぬいぐるみの一部に取り付けられていればよく、時計40の文字盤が外部から視認可能な部位であれば、取り付け場所

は問わない。例えば、開閉式のぬいぐるみの内部に取り付けられていて、開くと時計40が見えるように形成されたものであってもよい。また、時計40の種類は問わない。

【0013】前記外装基材20は、ぬいぐるみの外形を構成する基材であって、織布、不織布、ネットなどの繊維製品により形成されている。ここで、「繊維」は、合成繊維であると天然繊維であるとを、又その化学組成、成分は問わない。そして、上記繊維には、発光部材が添加されている。ここでいう発光部材とは、光の照射により発光する性質を有する物質、例えば蛍光体、蓄光性蛍光体、昼光蛍光体、乱反射体などを含有するものである。

【0014】また、「添加」とは、含有、含浸、配合、練り込んだものをいう（以下、本文中同じ）。例えば、特開平8-127937に記載された蓄光性蛍光を有する繊維などがある。そして、上記外装基材20は、繊維自体に発光部材を添加して布を形成したもの、布の状態で発光部材を表面に塗布、印刷又は吹き付けたもの、若しくは布に発光部材を含浸させたもののいずれでもよい。

【0015】本発明においては、外装基材20の全体に前記発光部材を添加した繊維が使用されていてもよいし、外装基材20の一部に使用されていてもよい。本発明によれば、発光部材の作用により、光のあるところで、あるいは暗所においても、時計付きぬいぐるみが発光して見える。

（請求項2）請求項2記載の発明は、次の点を特徴とする。

【0016】すなわち、請求項2記載の発明は、ぬいぐるみの外装基材20の少なくとも一部に発光部材を添加した毛23を設け、かつ、ぬいぐるみの一部に時計40を装着したことを特徴とする。本発明は、発光部材を添加した毛23を設けた時計付きぬいぐるみである。本発明においては、毛23の化学組成、成分、取り付け方法、製造方法や形態（ループ、起毛、植毛）は問わない。例えば、通常の繊維により形成された外装基材20に、発光部材を添加した毛23を植毛してぬいぐるみ本体10を形成することもできるし、外装基材20に設けられたループ、起毛に発光部材を添加してもよい。

【0017】また、ぬいぐるみ本体10のすべてに毛23が設けられていてもよいし、一部に設けられていてもよい。さらに、毛23のすべてが発光部材を添加した毛であってもよいし、毛23の一部を発光部材を添加した毛で構成してもよい。なお、外装基材20については、発光部材を使用してもよいし、使用しなくてもよい。

【0018】（請求項3）請求項3記載の発明は、次の点を特徴とする。すなわち、請求項3記載の発明は、ぬいぐるみの外装基材20の繊維及びこの外装基材20に設けた毛23の少なくとも一部に発光部材を用い、かつ、ぬいぐるみの一部に時計40を装着したことを特徴とする。

【0019】本発明は、ぬいぐるみ本体10の少なくとも

一部に毛23を設けた時計付きぬいぐるみであって、ぬいぐるみの外装基材20の繊維及び毛23の少なくとも一部に発光部材を用いたものである。本発明においては、発光部材を添加しない繊維でぬいぐるみの外装基材20を形成し、起毛やループで毛23が構成されているようにしたものであってもよいし、発光部材を添加した繊維でぬいぐるみの外装基材20を形成し、発光部材を添加した毛23を植毛したものであってもよい。また、外装基材20は発光部材を添加しない繊維で形成し、毛23の少なくとも一部に発光部材を使用したものとすることもできるし、外装基材20の少なくとも一部に発光部材を添加した繊維を用い、毛23を発光部材を添加しない繊維で形成することもできる。

【0020】（請求項4）請求項4記載の発明は、上記した請求項2又は3記載の発明の特徴点に加え、次の点を特徴とする。すなわち、請求項4記載の発明は、前記ぬいぐるみの外装基材20に設けた毛23は、部位により長さが異なることを特徴とする。

【0021】本発明によれば、長さの長い毛の部分は添加される発光部材の量が多く、逆に短い場合は量が少ないので、毛の長さにより発光の度合いが異なるものとなる。

（請求項5）請求項5記載の発明は、上記した請求項1乃至4のいずれか1項に記載の発明の特徴点に加え、次の点を特徴とする。

【0022】すなわち、請求項5記載の発明は、ぬいぐるみの外装基材20の表面を飾る飾り材24の少なくとも一部に発光部材を用いたことを特徴とする。ここで、飾り材24は、ぬいぐるみ本体10の表面に取り付けられる外装基材20とは別体の部材である。例えば、外装基材20の表面に刺繍された糸21、貼り付け又は縫いつけられた布、付着させた毛23などの繊維の他、プラスチック製品など繊維以外のものも含む。例えば、発光部材を練り込んで形成した合成樹脂製のボタンやビーズなどであってもよい。

【0023】なお、飾り材24は、装飾目的だけではなく、例えば動物の口(22)や目(24)として使用されているものも含む。

（請求項6）請求項6記載の発明は、上記した請求項1乃至5のいずれか1項に記載の発明の特徴点に加え、次の点を特徴とする。

【0024】すなわち、請求項6記載の発明は、前記発光部材は、蓄光性機能を有する蓄光性蛍光体を含有することを特徴とする。ここで、「蓄光性機能を有する蓄光性蛍光体」とは、光の照射を受けた後、光が遮断されても一定時間にわたり発光する性質を有する物質である。具体的には、蓄光性蛍光体として、特開平08-127937に記載されているものとすることができる。例えば、 $M_{1-x}A_{1-x}O_{4-x}:Eu, Z$ （Mは、カルシウム、ストロンチウム、バリウムからなる群から選ばれる少な

くとも一つ以上の金属元素、Zは、ランタン、セリウム、プラセジウム、ネオジウム、サマリウム、ガドリニウム、テルビウム、ジスプロシウム、ホルミウム、エルビウム、ツリウム、イッテルビウム、ルテチウム、マンガン、スズ、ビスマスからなる群の少なくとも一つ以上の元素、 $-0.33 \leq X \leq 0.60$ )で表される蓄光性蛍光体を用いることができる。

【0025】本発明によれば、特に暗所において、時計付きぬいぐるみが残光により発光して見える。

(請求項7)請求項7記載の発明は、上記した請求項1乃至6のいずれか1項に記載の発明の特徴点に加え、次の点の特徴とする。

【0026】すなわち、請求項7記載の発明は、前記発光部材は、紫外線により発光する蛍光体を含有することと特徴とする。ここで、「紫外線により発光する蛍光体」とは、紫外線を照射すると蛍光発光する性質を有する物質であって、いわゆるブラックライトを照射すると蛍光発光する無機蛍光体と、太陽光線や蛍光灯の下でも蛍光発光する有機蛍光(昼光蛍光)体がある。

【0027】ブラックライトを照射すると蛍光発光する無機蛍光体の例としては、例えば、赤色に発光する  $\text{La}_2\text{O}_2\text{S}:\text{Eu}$ 、緑色に発光する  $\text{BaMg}_2\text{Al}_6\text{O}_{27}:\text{Eu}$ 、Mn、青色に発光する  $(\text{Sr}, \text{Ca}, \text{Ba}, \text{Ce})_{10}(\text{PO}_4)_6\text{Cl}_2:\text{Eu}$  などがある。本発明においては、蛍光体を含有する発光部材のみを使用することもできるし、蛍光体を含有する発光部材と、蓄光性蛍光体を含有する発光部材の双方を使用することもできる。従って、明るい所においては色彩が鮮やかに見え、暗所においては発光して見える時計付きぬいぐるみを提供することができる。

【0028】(請求項8)請求項8記載の発明は、上記した請求項6又は7記載の発明の特徴点に加え、次の点の特徴とする。すなわち、請求項8記載の発明は、部位により蓄光性蛍光体又は蛍光体の種類が異なることを特徴とする。

【0029】本発明は、繊維に添加する蓄光性蛍光体又は蛍光体の種類を変えて発光色を変化させることにより、発光時に、ぬいぐるみ本体10に模様50があらわれるように形成したものである。例えば、蓄光性蛍光体として、 $\text{SrAl}_2\text{O}_4:\text{Eu}$ 、Dyを用いると、暗所において緑色発光し、同様に、 $\text{Sr}_4\text{Al}_{14}\text{O}_{28}:\text{Eu}$ 、Dyを用いると、青緑色に発光し、 $\text{CaAl}_2\text{O}_4:\text{Eu}$ 、Nを用いると、紫色に発光する。また、 $\text{La}_2\text{O}_2\text{S}:\text{Eu}$ を用いることにより、ブラックライト照射時には赤色に発光する。

【0030】さらに、昼光蛍光体を用いることで、昼間でも色彩が鮮やかに見え、これらを併用することにより、昼夜を通じて視認性が向上する。本発明においては、ぬいぐるみ本体10の模様50(例えば縞模様)に対応させて、異なる種類の蓄光性蛍光体又は蛍光体を用いて

もよいし、ぬいぐるみ本体10の模様50に関わらず(例えば無地の場合でも)、異なる種類の蓄光性蛍光体又は蛍光体を用いて、発光時に模様50があらわれるようにしたものでもよい。また、外装基材20、毛23、飾り材24などの構成要素に応じて異なる種類の蓄光性蛍光体又は蛍光体を用いてもよい。

【0031】(請求項9)請求項9記載の発明は、上記した請求項1乃至8のいずれか1項に記載の発明の特徴点に加え、次の点の特徴とする。すなわち、請求項9記載の発明は、ぬいぐるみ本体10に、一方の面から他方の面に貫通する孔30を形成し、当該孔30に時計40を嵌め込んでなることを特徴とする。ここで「一方の面から他方の面に貫通する孔30」は、ぬいぐるみの正面側から背面側に貫通する孔、上面側から底面側に貫通する孔、側面方向に貫通する孔の他に、例えば正面側から上面側に貫通する孔なども含む。

【0032】そして、前記孔30に、時計40の文字盤が視認できるように時計40が嵌め込まれる。本発明によれば、時計40の表裏面がぬいぐるみ本体10の外部に露出しているため、置き時計として利用でき、時間あわせや電池交換などを、ぬいぐるみから取り外すことなく行うことができる。

【0033】

【発明の実施の形態】本発明の実施の形態を、図面に基づき説明する。図1及び図2は、本発明の実施の形態を示すものである。図1は、ぬいぐるみの腹部に孔30を形成し、その中に時計40を嵌め込んだ時計付きぬいぐるみを示す。

【0034】時計40は、周囲に突起物の無いものが好ましく、図示したものは円形であるが、これには限られず、例えば四角や六角形の時計40であってもよい。また、図示した時計40はアナログ式時計であるが、デジタル表示の時計であってもよい。また、時計40は、特開2000-356964に記載のように、発光層、着色層、夜光層、及び紫外線を含む光を照射する発光ダイオードを装着した時計であってもよい。

【0035】孔30は、時計40の外径より若干狭く形成されて、時計40を押し込むと、布22の弾力性で広がり、時計40がぴったりと嵌り込むようになっている。ぬいぐるみの外装基材20は、布22でできた繊維製品であり、その材質は問わない。例えば、木綿や羊毛などの天然繊維でもよく、アクリルやポリエステルのような合成繊維でもよい。さらに、その形態も問わない。例えば、繊維のほか、ニットや、フェルトなどの不織布などでもよい。

【0036】また、図1に示すように、この外装基材20に毛23を設けてもよい。毛23は、製造方法や形態は問わない。例えばループ、起毛、植毛などとなることができ。そして、この毛23は、場所により長さを変えるように形成することができる。例えば、ぬいぐるみの腹部に

は短い毛にし、手足や耳には長い毛を設けるようにしてもよい。また、特に図示しないが、ぬいぐるみ本体10の全体が毛23で覆われているように形成してもよい。

【0037】さらに、外装基材20の表面には、飾り材24が取り付けられている。飾り材24は、図1に示す動物の口を表した糸22や、目として取り付けられたボタンなどである。そして、前記ぬいぐるみ本体10の少なくとも一部には、発光部材として蓄光性蛍光体を添加した繊維が用いられている。

【0038】ここで、本発明において用いる蓄光性蛍光体は、例えば、 $M_{1-x}Al_2O_4 \cdot xEu$ 、Zで表される蓄光性蛍光体とすることができる。なお、Mは、カルシウム、ストロンチウム、バリウムからなる群から選ばれる少なくとも一つ以上の金属元素であり、Zは、ランタン、セリウム、プラセジウム、ネオジム、サマリウム、ガドリニウム、テルビウム、ジスプロシウム、ホルミウム、エルビウム、ツリウム、イットリウム、ルテチウム、マンガン、スズ、ビスマスからなる群の少なくとも一つ以上の元素である。ちなみに、この蓄光性蛍光体については、特開平08-127937に詳述されている。

【0039】具体的には、 $SrAl_2O_4 \cdot Eu$ 、 $Dy$ を用いると、緑色発光し、 $Sr_4Al_{14}O_{25} \cdot Eu$ 、 $Dy$ を用いると、青緑色発光する。また、 $CaAl_2O_4 \cdot Eu$ 、 $Nd$ を用いると、紫色発光する。上述の蓄光性蛍光体を添加した繊維は、例えば布22の部分、糸21の部分、毛23の部分に用いることができ、通常の繊維により形成された外装基材20に、蓄光性蛍光体を添加した毛23を植毛してぬいぐるみ本体10を形成することもできるし、蓄光性蛍光体を添加した繊維でぬいぐるみ本体10を形成し、起毛やループで毛23が構成されるようにしたものでもあってもよい。

【0040】なお、繊維以外の飾り材24、例えばボタン等を、蓄光性蛍光体を練り込んで形成した合成樹脂製としてもよい。そしてさらに、このぬいぐるみは、前記蓄光性蛍光体を添加した繊維により、ぬいぐるみ本体10に模様50が発光するように形成されている。具体的には、ぬいぐるみの模様50の部分には蓄光性蛍光体を添加した繊維となっており（あとから蓄光性蛍光体を塗布等してもよい）、他の部分は通常の繊維により形成されているものである。このように形成すると、蓄光性蛍光体を用いた部分のみが暗いところでも発光し、模様50が浮き出るようになる。

【0041】なお、前記模様50でない部分にも、縞模様の部分と種類の異なる蓄光性蛍光体を用いてもよい。また、無地の布地に、異なる種類の蓄光性蛍光体を用いて、発光時に模様50があらわれるようにしたものでもよい。以上のような構成を有するぬいぐるみは、置き時計として使用することができるが、ぬいぐるみ本体10に貫通した孔30を設けて時計40を嵌め込んであるので、時計

40の電池交換などの際、時計40を取り外す必要がない。

【0042】そして、蓄光性蛍光体を添加した繊維を使用しているため、暗くなってからでも残光により発光し続けるため、夜間などに時計40を探すのに便利である。さらに、蓄光性蛍光体を毛23の部分に添加した場合、毛の長さや密度の違いにより、発光する明るさを変化させることができる。たとえば、明るく発光させたい場合には毛を長くしたり密度を濃くすればよい。また、種類の異なる蓄光性蛍光体を用いることにより、発光時に模様50が見えるようにすることができる。

【0043】このように、ただ時計の在処を蛍光発光により認知させるだけでなく、その発光態様に変化をつけて、視覚的效果を高めることもできる。ところで、以上の例は、時計40をぬいぐるみ本体10に貫通させた孔30内に嵌め込むものであったが、例えば、図2に示すように、ぬいぐるみ本体10に埋め込むようにしてもよい。この場合、時計40の文字盤の回り（ハッチングで示した部分）に蓄光性蛍光体を添加した繊維を使用すると、暗いところで時計40の周囲のみが発光し、時計40の位置をより強調させることができる。

【0044】また、図2において、カンガルーのポケット部分にめがね等を入れるための物入れを形成し、その内部（ドットで示した部分）に蓄光性蛍光体を添加した繊維を使用すると、暗いところでめがねを探すのに便利である。このとき、前述の時計40の文字盤の回りに用いる蓄光性蛍光体と、ポケット内部に用いる蓄光性蛍光体との種類を変えれば、異なる色彩で蛍光発光するので、区別がしやすい。

【0045】また、特に図示しないが、時計40を開閉式のぬいぐるみの内部に取り付け、開くと文字盤が見えるように形成されたものであってもよい。例えば、貝が二枚合わさった貝殻の形をしたぬいぐるみの内部に時計40を付けたものとしてすることができる。二枚の貝は、ファスナー等の開閉手段で口を開閉できるようにしておく。そして、貝の内側に蓄光性蛍光体を添加した繊維を使用することにより、蓋を開けておけば夜でも時計40を見ることができる。そして、持ち運ぶときには蓋を閉じるようにすれば、時計40が傷つかず、旅行等に携帯するのに便利である。

【0046】なお、上記した実施の形態においては、繊維に添加する発光部材として、蓄光性蛍光体を用いたが、蛍光体を使用してもよい。蛍光体としては、有機蛍光体、無機蛍光体のいずれを使用してもよい。また、蓄光性蛍光体と蛍光体との双方を使用してもよい。このようにすると、昼間など明るいときには、蛍光成分の作用によりぬいぐるみの色が鮮やかに見え、夜間などの暗いときでも、蓄光性蛍光体の残光作用によりぬいぐるみが発光して見え、いずれの場合も、時計の在処を強調することができる。

【0047】さらに、発光部材として、ガラスビーズな

どによる乱反射体を使用してもよい。これは、塗料の中や上に微細なガラスビーズを並べて照射した光を乱反射させるものであり、光が当たったときにぬいぐるみが発光して見える。

【0048】

【発明の効果】本発明は、以上のように構成されているので、以下に記載されるような効果を奏する。

（請求項1乃至3）請求項1乃至3記載の発明によれば、次のような効果を奏する。

【0049】すなわち、請求項1乃至3記載の発明によれば、昼間又は夜間のような暗所でも繊維に添加された発光部材の発光又は反射光により、時計及びぬいぐるみが視認できる時計付きぬいぐるみを提供することができる。

（請求項4）請求項4記載の発明によれば、上記した請求項2又は3記載の発明の効果に加え、次のような効果を奏する。

【0050】すなわち、請求項4記載の発明によれば、部位により発光する明るさの異なる時計付きぬいぐるみを提供することができる。

（請求項5）請求項5記載の発明によれば、上記した請求項1乃至4のいずれか一項記載の発明の効果に加え、次のような効果を奏する。

【0051】すなわち、請求項5記載の発明によれば、ぬいぐるみに付けられた飾りが発光する時計付きぬいぐるみを提供することができる。

（請求項6）請求項6記載の発明によれば、上記した請求項1乃至5のいずれか1項に記載の発明の効果に加え、次のような効果を奏する。

【0052】すなわち、請求項6記載の発明によれば、暗所において残光により発光し、夜間でも視認可能な時計付きぬいぐるみを提供することができる。

（請求項7）請求項7記載の発明によれば、上記した請求項1乃至6のいずれか1項に記載の発明の効果に加え、次のような効果を奏する。

【0053】すなわち、請求項7記載の発明によれば、紫外線を照射することにより発光し、さらに太陽光や蛍光灯の下でも昼光発光することにより色が鮮やかに見える時計付きぬいぐるみを提供することができる。

（請求項8）請求項8記載の発明によれば、上記した請求項6又は7記載の発明の効果に加え、次のような効果を奏する。

【0054】すなわち、請求項8記載の発明によれば、部位により発光する色彩の異なる時計付きぬいぐるみを提供することができる。

（請求項9）請求項9記載の発明によれば、上記した請求項1乃至8のいずれか1項に記載の発明の効果に加え、次のような効果を奏する。

【0055】すなわち、請求項9記載の発明によれば、すなわち、請求項9記載の発明は、置き時計として使用でき、時計の電池交換や時間あわせがしやすい時計付きぬいぐるみを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の形態であって、時計付きぬいぐるみを示す図である。

【図2】本発明の他の実施の形態であって、時計付きぬいぐるみを示す図である。

【符号の説明】

10	ぬいぐるみ本体	20	外装基材
21	糸	22	布
23	毛	24	飾り材
30	孔	40	時計
50	模様		